



夏の皮膚トラブル対策

1. 光線過敏症

貼り薬の中には、日光に対して過敏に反応し、強い日焼けを起こすことがあります。

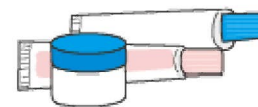
医薬品ではケトプロフェンを成分とした貼り薬（**モーラステープ**、**タッチロンテープ**、**パテルテープ**）がそれに当たります。この貼り薬を使用している方は、貼った場所を紫外線に直接当たらないようにしてください。また、貼った後にかゆみ、発疹、浮腫、水疱が起きた場合は医療機関を受診してください。



2. 虫刺され

人を刺す虫として、蚊、ダニ、ブヨ、ノミ、ハチなどがあります。掻き過ぎにより二次感染してとびひに進展する場合もあるので、掻かないようにしましょう。市販薬を使う場合、軽い症状には抗ヒスタミン薬、少し炎症が強い場合にはステロイドを配合した外用薬をおすすめします。しかし、症状の強い場合は、皮膚科を受診しましょう。治療は、炎症を抑えるステロイド薬の外用や内服、かゆみを抑える抗ヒスタミン薬の内服が中心となります。まれにアナフィラキシーを起こす場合もあるため、悪心・嘔吐・呼吸困難などの前兆となる症状が出たらすぐに近くの医療機関を受診しましょう。

予防のためには医薬品としての虫除けスプレーの使用も有効ですが、顔面や首筋への直接噴霧は避け、手に適量をスプレーして薬剤を肌に塗り広げるようにしましょう。なお、虫除けスプレーを12歳未満の小児に使用する際は保護者が行き、6ヶ月未満の乳児には使用できないことになっています。



3. 接触性皮膚炎

<毛虫刺され>

毛虫の中には毒性が強く、激しいかゆみを引き起こす毛虫がいます。毛虫に触れなくても、毛虫の毒針毛（毒をもった細かい針状の毛）は空中を浮遊するため、風に流されて皮膚に付着することもあります。

もし被害にあったときは、応急処置として、まずはセロハンテープで毒針毛を取り除き、流水で患部を洗い流し、氷や保冷パックで冷やしましょう。毛虫被害はしつこいかゆみの特徴です。塗り薬としては、ステロイドの塗り薬を選びます。症状が強く、全身に現れるなどした場合は医療機関を受診してください。

<あせも>

首筋や肘の内側、膝の裏など、汗がたまりやすい部分にかゆみが起こりやすいです。

対策としては、汗をかいたら早めに洗い流しましょう。一般用医薬品では、ステロイドや抗ヒスタミン薬の塗り薬があります。

<その他>

身近なもので原因になりやすいのは、金属製のアクセサリー、腕時計の革バンド、ズボンのボタン、革製のバッグなどです。アクセサリーなどに含まれる金属や、革製品に含まれることの多いクロムを汗が溶かしだすため、夏場はかぶれやすくなります。



参考文献：知っておきたい皮膚症状 ENIFvol23 No.8 2014

調剤と情報 2013.7 きょうの健康 2010.8 田辺三菱製薬 HP

お近くのあすなろ薬局にご相談ください。

どの病院・診療所の処方せんにも対応できます。（お薬によっては時間がかかります）

薬・健康食品・サプリメント等についてのご相談を受け付けています。

（甲府）055-228-4024 （巨摩）055-283-3050 （石和）055-263-1568 （武川）0551-26-3800 （大月）0554-20-1301